

事業報告書

1 法人の概要

(1) 基本情報

法人の名称等	学校法人トキワ松学園
	東京都目黒区碑文谷4-17-16 電話番号 03-3713-8161 (代表) FAX番号 03-3793-2562 (事務室)

(2) 建学の精神

トキワ松学園創立者三角錫子の「長い年限を女学校に行かれないけれども学びたいという人のために建てた学校である。皆が自由に楽しく学べばよい。子どもたちがめいめい持って生まれた天分を伸ばしてあげればよいのだ。今のように、女学校の卒業証書が嫁入り道具のタンスならば、ここ(常磐松)のは小さくともその中にしっかりした鋼鉄に一輪のすみれの花をそえて包んでいってほしい」との教育理念を今日の全人教育に敷衍すべく、「鋼鉄に一輪のすみれの花を添えて」を学園の建学の精神として今も受け継ぎ、「鋼鉄の強さと華の優しさをあわせ持って、真の自由と自立を身につけ、社会に貢献できる人に育てる」ことを教育の柱に位置付ける。

また、横浜美術大学は前身となるトキワ松学園女子短期大学の創立者である室谷早の教育理念「美術による創造性豊かな人間形成」を建学の精神としている。

(3) 法人の沿革

- | | | |
|----|-------|-----------------------------------|
| 大正 | 5.7 | 創立者三角錫子、東京府豊多摩郡渋谷町に2年制の常磐松女学校を設置。 |
| | 12.4 | 4年制の常磐松高等女学校となる。 |
| 昭和 | 13.4 | 5年制の常磐松高等女学校となる。 |
| | 20.5 | 東京空襲により校舎焼失。 |
| | 21.4 | 学校法人和光学園(世田谷区)に移転。 |
| | 22.3 | 同学園より独立し、国学院大学の教室を借用し、再建の準備をする。 |
| | 22.4 | 新制常磐松中学校設置。 |
| | 22.7 | 財団法人常磐松学園設立。 |
| | 23.2 | 目黒区碑文谷に校舎竣工。国学院大学より移転。 |
| | 23.4 | 新制常磐松高等学校設置。 |
| | 26.3 | 学校法人トキワ松学園設立。 |
| | 26.4 | トキワ松学園小学校設置。 |
| | 41.4 | トキワ松学園女子短期大学造形美術科設置。 |
| | 62.4 | 短期大学別科(デザイン専修1年)設置。 |
| 平成 | 6.4 | 短期大学別科(デザイン専修)廃止。 |
| | 7.4 | 短期大学の校名を「トキワ松学園横浜美術短期大学」に変更。 |
| | 8.4 | 短期大学に専攻科設置。 |
| | 12.2 | 目黒校舎建替え工事竣工。 |
| | 13.4 | 短期大学の校名を「横浜美術短期大学」に変更。男女共学の実施。 |
| | 16.3 | 短期大学6号館竣工。 |
| | 17.2 | 短期大学体育館竣工。 |
| | 18.11 | 学園創立90周年記念式典実施。 |
| | 20.5 | 目黒体育館・プール竣工。 |
| | 21.6 | 短期大学新本館竣工。 |
| | 21.10 | 横浜美術大学設置認可。 |
| | 22.4 | 横浜美術大学開学。短期大学造形美術科・専攻科 学生募集停止。 |
| | 23.11 | 小学校創立60周年記念式典実施。 |
| | 24.7 | 横浜美術短期大学廃止。 |
| | 28.4 | 大学学科名称を「美術・デザイン学科」に変更。 |
| | 28.11 | 学園創立100周年記念行事実施。 |
| 令和 | 3.11 | 小学校創立70周年記念。 |

(4) 設置する学校、学科、学生数等

単位：人

学 校 名	学科等の名称	開設年度	入学定員	R7年4月 入学者数	収容 定員 A	左の現員 B R7.5.1現在	充 足 率 B/A %
横浜美術大学 (所在地) 横浜市青葉区鴨志田町	美術・デザイン 学科	平成22年度	1年次 192 編入 2	214 3	772	839	108.7
トキワ松学園高等学校 (所在地) 東京都目黒区碑文谷	全日制課程 普通科	昭和23年度	200	106	600	364	60.7
トキワ松学園中学校 (所在地) 東京都目黒区碑文谷		昭和22年度	200	125	600	340	56.7
トキワ松学園小学校 (所在地) 東京都目黒区碑文谷		昭和26年度	40	50	240	287	119.6
合 計			-	498	2,212	1,830	82.7

(5) 役員・評議員の概要 (令和7.5.1現在)

① 役員

・理事 定員 8人以上10人以内
現員 9人

・監事 定員 2人
現員 2人

理事長：岡本 信明

理 事（常勤）： 加藤 良次、 田村 直宏、 百合岡 依子、 綿引 豊

理 事（非常勤）： 石川 一郎、 田畑 彰久、 前原 小絵子、 島尾 新

監 事（非常勤）： 藤田 紳、 清水 美和子

② 評議員

・定員 23人以上25人以内

現員 22人

岡本 信明	加藤 良次	田村 直宏	百合岡依子	綿引 豊
三橋 純	小野寺玲子	内田 均	播磨 康泰	中里 謙一
川澄 幸宏	杉山 孝貴	桑野 紀子	森 久美子	清原隆太郎
石川 一郎	金谷三枝子	丸山 宏	井口 敬子	カンデー・ユース
米澤 文彦	池原 照子			

○責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の内容

1. 責任限定契約（対象：非業務執行理事、監事）

（契約内容の概要）

非業務執行理事及び監事が任務を怠ったことにより生じた損害について本法人に対する賠償の責任は、その職務を行うにあたり善意でかつ重大な過失がないときは、私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とする。

2. 役員賠償責任保険への加入

- ・対 象 者：全役員及び全評議員並びに管理職従業員（理事会決議で選任された者）
- ・補償内容：法律上の損害賠償金、争訟費用、法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等

(6) 教職員数 (令和7.5.1日現在)

単位：人

区分	法人事務局			大学			高等学校			中学校			小学校			合計		
	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計
教員	0	0	0	44	169	213	31	8	39	16	13	29	20	3	23	111	193	304
	0	0	0	21	62	83	19	7	26	12	11	23	11	2	13	63	82	145
職員	2	0	2	20	34	54	5	3	8	3	3	6	1	1	2	31	41	72
	0	0	0	12	26	38	4	3	7	2	2	4	1	0	1	19	31	50
計	2	0	2	64	203	267	36	11	47	19	16	35	21	4	25	142	234	376
	0	0	0	33	88	121	23	10	33	14	13	27	12	2	14	82	113	195

※大学専任教員には助手を含む。中高専任職員にはALT（外国語指導助手）を含む。（注）下段は、女性の教で内数

(7) 理事会・評議員会の開催状況

ア) 理事会 7回開催

区分	開催年月日	主な審議事項等
定例	令和6年5月1日	・理事長の選任
定例	令和6年5月28日	・令和5年度決算及び事業報告 ・日本私立大学協会評議員選任
定例	令和6年7月9日	・高中小奨学生規程改正
定例	令和6年10月29日	・小学校長選考 ・大学学則改正 ・大学教員規程改正 ・任期付教員就業規則・給与規程改正 ・再雇用理事給与退職金
定例	令和6年11月26日	・寄附行為の変更
定例	令和7年2月25日	・中学校学則改正 ・大学特待生規程改正 ・評議員の推薦 ・賠償責任保険加入
定例	令和7年3月25日	・令和6年度補正予算 ・令和7年度当初予算及び事業計画 ・中期的な計画 ・役員評議員報酬規程 ・内部統制システム整備方針

イ) 評議員会 4回開催

区分	開催年月日	主な審議事項等
定例	令和6年5月1日	・評議員会議長選任 ・理事の選任
定例	令和6年5月28日	・令和5年度決算及び事業報告
定例	令和6年11月26日	・寄附行為の変更
定例	令和7年3月25日	・令和6年度補正予算 ・令和7年度当初予算及び事業計画 ・中期的な計画 ・役員評議員報酬規程 ・評議員の選任

事業計画	令和6年度実績
<p>I 直近の認証評価(大学基準協会)における改善指摘事項への対応 認証評価における<改善指摘事項></p> <p>1) 教授会及び「運営委員会」が内部質保証システムについて果たす役割を明確にし、「将来計画・経営戦略委員会」を中心とした内部質保証を有効に機能させるよう、改善が求められる。</p> <p>2) 教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化に係る組織的なFD活動については実施しておらず、改善が求められる。</p> <p>3) 教授会と各種委員会の関係性や意思決定プロセスが、規程上明確になっていない。議事録等も審議過程がわかるよう記述すること。</p> <p>4) 財政基盤の確立に向けて、具体的な数値目標を含む中・長期財政計画を策定・実行することが求められる。</p> <p>II 教育研究活動 (1) 教育研究の推進 ・新カリキュラムの導入(2年目)と円滑な運用</p>	<p>I</p> <p>1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会改め運営協議会を「内部質保証の推進に責任を負う組織」として定め、将来計画・経営戦略委員会を吸収し、構成員として新たに研究室主任や各委員会委員長を加え、全学的な組織として再構築した。 ・また、教授会においては「教育・研究に係る規程に関する事項」を運営協議会に委ね、学長を中心としたコンパクトな大学ガバナンス体制を構築した。 ・なお、非公式に運用していた3役会は、学長の意志決定支援及び学内の円滑な合意形成を目的に審議する組織として学長室会議を新設した。 <p>2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度以前より、教員の研究活動や社会貢献等の諸活動については、大学ホームページや教授会等で報告をおこなっていたものの、活性化に係る組織的なFD活動については実施していなかったが、2025年度には、教員の研究活動や社会貢献等の諸活動を報告できる機会や科研費に関する説明会などを設けるためにFD推進委員会にて協議することとした。 <p>3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度において法令上における学長・教授会・各種委員会の相互の役割・関係性を整理し、学内における意思決定プロセスを明確化し、所要の手続きを改定した。また、議事録等について審議の過程が分かるものとなるよう学長名で通達を発信し、周知徹底したことにより改善がみられた。 <p>4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度に策定した予算編成の基本方針において、学園全体の黒字額に関する具体的な数値目標を明記したことを踏まえ、2024年度もその方針を踏襲し、予算編段階から明確な財政目標の設定を行った。具体的には2024年度予算においても、部門別の収支計画に黒字額の数値目標を明記し、全学的な共有と理解を図った。また、中・長期的な財政計画についても、将来を見据えた持続可能な財政基盤の確立に向けて全学的な取り組みを進めている。 <p>II 教育研究活動 (1) ・政府発出「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の創設及び私立大学等改革総合支援事業における設問項目の補填を理由とし、2025年度</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・学生の PC 必携化を定着させ、ICT 活用による学びの個別化や協働化を推進 ・原則、対面型授業とし、アクティブラーニングによる教育力を強化 ・学習成果について複数観点からの可視化推進 <p>(2) 教育の質的転換に係る課題への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新内部質保証システムの確実な運用 ・IR 機能の強化 <p>(3) 計画的な教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生数増等に伴う教室不足への対応: キャンパスマスタープランWG の設置 ・学生の PC 必携に伴う環境整備 (セキュリティ強化、Wifi 環境整備、回線の強化等) ・既存設備の修繕・老朽化への対応 <p>(4) FD・SD 活動の推進</p>	<p>新規開講科目として 2023 年度以降入学生を対象とし「データサイエンス・AI 概論」を新設することとし、担当教員及び授業内容について、担当の基礎実技科目研究室を中心に整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC 必携は定着化しているが、貸与対象を全学年から新入生に改め、経済的困窮者を選考の上、1 年間無償で一時貸与をして学びの機会を推進している。 ・2023 年 4 月より導入した新カリキュラム科目として「総合美術論」を初年次教育の必修科目として開講し、対面方式のアクティブラーニング型の教育を強化した。さらに、オムニバス形式を取り入れ、強度ある制作指向の確立を目指し、講義と演習 (制作課題やワークショップ) 及びディスカッションを組み合わせた、よりアクティブな授業を行い、創発的な環境を整えた。 ・通常の成績通知書における評価と単位数に加え、本学の学びによって身についた力が定期的かつ分かりやすく視覚的に把握され、以後の履修科目の選定の判断や、学修意欲の向上に繋がることが期待される「プレ・ディプロマ・サプリメント」の導入を進め、2025 年度より、現存の Web ポータルシステムにて、全ての学生が自身のプレ・ディプロマ・サプリメントおよびディプロマ・サプリメント (4 年次のみ) を閲覧・印刷することができる運用とした。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証の推進に責任を負う運営協議会は、管理運営、教育研究を含め重要案件を審議する全学的な組織として稼働している。 ・「将来計画・経営戦略委員会」傘下の IR 室は、運営協議会に機能を移設し、継続して教学マネジメントの支援強化を行っている。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新棟建設準備及び建築費用の積立を継続実施した。 ・学生 PC 必携に関し、経済的な理由から準備できない学生向けの貸与制度を継続運用し、2024 年度は 10 名の利用があった。 ・既設設備については、一部教室の映像投影機器の老朽化に伴い機器更改を実施した。4-12 教室プロジェクタリプレース (2025. 03. 13 実施) <p>(4)</p>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究活動等を活性化するため、FD 活動としてテーマ化し推進。 ・FD・SD研修会を通じて教員の教育力強化。 ・SD研修会で抽出した諸課題への継続的取り組み。 <p>・DX強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回・2回エピペン研修 ・救命講習会 (AED) ・第1回 情報交換会「Chat GPT や生成 AI について各研究室での扱い」 ・第2回 情報交換会「2023 年度以降入学生新カリキュラムの教員報告」 ・コンプライアンス研修会 ・メンタルヘルスに関する研修会 ・合理的配慮に係る研修会 (推進編) ・教員の教育力向上のための授業改善研修会 <p>※特に 2024 年 4 月より義務化された合理的配慮に関する実践的な研修会 (推進編) を実施したことにより、教職員間における、本学が提供することができる合理的配慮に関する事項や対応事例について、グループワークを通して確認及び検討を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学務課教務担当にて実施した成績証明書等の紙媒体のデジタル化についての検討を行った。
<p>III 学生支援活動</p> <p>(1) 学生支援活動の積極的展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生支援、修学支援の強化充実 <p>・創作活動支援の充実</p> <p>・就職、キャリア支援の強化充実</p>	<p>III</p> <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員資格取得支援として、2024 年度以降入学生を対象として、「博物館実習 I (2 単位)」「博物館実習 II (1 単位)」をそれぞれ、2026 年度、2027 年度に開講すべく、学則改正を行った。なお、上述した 2 科目及び既存の「博物館概論 (2 単位)」以外の科目は通信制大学で単位修得が必要となる。 ・学生支援、修学支援の一環として、保健室が主体となり、2025 年度より「情報交換連絡会」発足に向けて、内容の整備を行った。本連絡会は原則月 1 回の開催とし、学部長、学生部長の他、事務関連部署の職員が連携し、配慮が必要な学生の共有の他、事前にケアが必要な学生の早期発見を目的としており、退学の防止に繋げる等の学生支援、修学支援の一環として期待される。 ・前年度に引き続き、web ポータルの整備をおこなった。学生手帳の電子化や閲覧ダウンロードの強化を行った。 ・学生の創作活動支援として、出品発表支援制度があるが、2024 年度より日本国内だけでなく、海外の支援も追加され運用を開始した。 ・2024 年度は、内定者数・就職率、共に過去最多となった 2023 年度に続き、安定した数値を維持することができた。4 種のキャリアデザイン授業履修人数大幅増員への促し行動や、3 年次全員面談の前倒し等、ここ複数年のキャリア支援施策の影響が大きいと評価している。次年度は、既存施策の改善で精度向上を目

<p>・企業との連携推進</p> <p>IV 学生募集計画 (1) 令和7年度入学者目標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">216人</div> <p>(2) 入試広報の充実及び適切な入試の実施 ・大学ホームページの適切な更新</p> <p>・SNS連携を強化し、広報活動の更なる充実</p> <p>・入試の適切な実施継続</p> <p>V 地域・社会活動 (1) 地域連携・社会貢献の推進</p>	<p>指しつつ、各コースより選出されたキャリア委員教員との連携をより強化し実行していく。また、この実績を持って、就職率向上施策は一定の目標を達成したと判断し、創作活動・進学支援施策にも注力していく。</p> <p>・企業開拓を意識した職員のイベント参加や、個社訪問を実現し、本学学生と親和性のある企業と関係構築を進めた。それらの企業群から、就職活動年次である3年次履修対象のキャリアデザインⅢ授業内に多種多様な企業を招聘し登壇を実現することで、学内で学生が業界・企業研究を実現する機会を提供できた。また、4年次対象には、本学学生に対する採用意欲の高い企業による企業説明・選考会を実現することで、より直接的な企業と学生の接点を創出した。結果、この機会をきっかけに参加企業へ進路決定する実績も出た。</p> <p>IV (1) ・入学試験開始前、最終的には1年次入学者目標を214名、編入学目標を2名とし、入学試験を実施した。最終的に令和7年度(2025年度)は、1年次214名、3年次3名の合計217名が入学した。</p> <p>(2) ・大学ホームページについて、「お知らせ」に掲載できる情報があれば、随時更新することで情報を素早く共有できるようにしている。また、ページ内の変更についても広報だけでなく、業務担当部署や他部署と連携をとりながら適切に更新することができた。</p> <p>・入試広報イベント情報、教育研究活動の成果を定期的に配信した。各種SNSを積極的に活用し、各種広報イベント(オープンキャンパス、描き講習、授業見学会など)の周知などにも利用し、広報活動を充実させている。</p> <p>・オープンキャンパスなどの広報活動について広報説明会をオンラインにておこない、説明に齟齬が出ないように情報共有を図っている。 また、入学試験に関しても入学試験委員長を中心とし、教員対象の入学試験説明会、助手副手職員対象のメールによる入試説明など状況に適した方法で説明会を行い、文部科学省からの通知、入試大綱、要項などに則り、公平、明快に入学試験を行うように努めている。</p> <p>V (1)</p>
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携センターによる公開講座の充実 ・地域コミュニティ（企業、自治体等）との連携事業の推進 ・青葉区との連携事業の推進 ・青葉区と青葉6大学との連携・協力に関する協定に基づく事業の推進 <p>VI その他</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 認証評価の受審結果を踏まえた改善対応 ・令和6年度より新内部質保証システムを有効に機能させるよう運用を開始。 ・中期的な計画に財務基盤の確立に向けた具体目標を策定。 (2) 私立大学等改革総合支援事業の取り組みによる改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同様に2024年度の生涯学習公開講座を開催した。 ・企業や自治体との連携事業は以下の通り ナイス(株)、(株)こもれ陽との産学連携プロジェクト 雪印こどもの国牧場でフェルトを使用したワークショップを開催 横浜開港祭2024「サーキュラーエコノミー」上映イベント 青葉台東急スクエア24周年アニバーサリーポスターデザイン制作、各種ワークショップに協力他 横浜市立金沢動物園「ナイト金沢 ZOO 竹灯籠制作」 相模大野アートクラフト市展示・参加 たまプラーザテラス共用部活用プロジェクト作品展示 三菱ケミカル(株)Science & Innovation Center エントランス作品展示 ・青葉区との連携事業は以下の通り 生活困窮者自立支援制度青葉区版周知ポスターの制作（青葉区生活支援課） 夏祭り用のうちわのデザイン制作（青葉区地域振興課） 絵本の貸出「くるくる絵本サーカス」の実施（青葉区子ども家庭支援課） あおば美術公募展、審査（青葉区地域振興課） 青葉区長室等の作品展示（青葉区総務課） 青葉消防署主催の火災予防ポスター審査 交通安全看板イラスト制作（青葉交通安全協会） ・青葉区と青葉6大学との事業推進は以下の通り 青葉6大学 FES に参加し、「ジェスモナイトで手乗り彫刻をつくろう」ワークショップを開催（青葉区区政推進課） 青葉区、青葉6大学との定期的な会議参加、意見交換を行った。 <p>VI その他</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ・法令上における学長、教授会、各種委員会、併せて学長室会議、運営協議会等の相互の役割・関係性を整理し、対応を進めて行った。 ・中長期的な計画策定に関し、具体的な財務数値目標を設定して、継続実施していく。 (2) ・令和6年度大学等改革支援事業タイプ1の資金を獲得し、さらに改革の推進に努める。
--	--

<p>(3) 学生、教職員の学外及び学内における企画展の開催</p>	<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助手副手発表支援制度に基づき、助手・副手が各自で個展を開催した。また、「助手副手展」(横浜赤レンガ倉庫)を開催した。
------------------------------------	--

トキワ松学園中学校・高等学校

事業計画	実績
<p>I 教育研究活動</p> <p>(1) 「探究女子」育成の為の授業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年高等学校学習指導要領改訂に伴い、「総合的探究の時間」を使ったトキワ松独自プログラム「探究」がスタートしたが、今年度でそのカリキュラムが完成する。 ・高1での「企業探究学習」、高2での「個人探究」を更に充実させるとともに、「探究」の授業を経験した高3生の進路実現に向けて教員が伴走する体制を整備する。 ・より良い教育環境を整える為に、2023年度より高校全学年で教育課程を一部変更した。生徒の為には変化を恐れず迅速に対応する姿勢を継続し、中学段階での探究活動を活発化する教育課程変更も検討していく。 <p>(2) 国際力教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの海外研修制度、イギリス多文化研修、オーストラリアターム留学、アメリカアート研修を継続する。 ・まだ実施できていないアメリカアート研修は、2024年度より実施させたい。世界の情勢不安、円安、物価高と海外研修への逆風が吹いているが、その中で研修を再開することはトキワ松の国際力教育を世間にアピールする絶好の機会であると考えます。 ・海外進学の更なる充実の為に、台湾留学サポートセンター、マレーシア留学サポートセンターと連携した。台湾への進学者が2年連続で生まれるなど、既に実績が出ており、更なる充実を図っていく。 ・ALT(外国語指導助手)の中学1名、高校1名の計2名の活用を続け、本校の特色であるネイティブ2名+日本人1名のティームティーチングで行う、Listening&Speaking、Global Studiesを継続する。 ・English Day、Winter challenge等の英語系行事を更に発展させていく。 <p>(3) ICT環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Surface Goを全校生徒が持つ状態が3年目に入り、生徒・教員共に1人1台端末が当たり前の状況になってきた。 	<p>I</p> <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高1の「企業探究学習」では探究の全国大会 Quest Cupに全国最多の3組が出場し、うち1チームが「イオンリテール」部門で企業賞(2年連続)を獲得した。また、高2の個人探究に向けて「思考と表現」の授業と協力し、マイテーマを決めることができた。 ・高2での「個人探究」ではサイエンスキャッスルジャパン2025に全国最多の7人が出場し、うち1人が銀賞(全国ベスト4)を受賞するなど、数多くの全国大会で入賞することができた。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカアート研修は今年度も実施できず、2027年度に向けてアメリカイヤーロングプログラムに変更することとした。 ・イギリス多文化研修とオーストラリアターム留学の両方に参加した生徒が、総合型入試で国際基督教大学に合格した。探究活動と高い英検級、中学経験は、生徒の進学に確実につながることが示された。 ・台湾留学サポートセンターとの連携により、3年連続で台湾の大学に進学している。 ・2024年度も通年でALT2名体制を取り、トキワ松の特徴であるネイティブ2名と日本人教員1名の計3名によるティームティーチングを実施した。 ・英語系行事は英語力だけでなく発表力も鍛えており、「探究女子」育成に不可欠な行事である。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi環境の増強により、通信速度の速い快適な授業環境が整った。

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で習得したオンラインの方法も、始業式、学年集会、学級閉鎖時などで現在も活用されている。 ・Wi-Fi 回線も毎年増強し、環境の充実も図っている。現場の声を聞き、更に ICT 環境を整えて生きたい。 ・トキゼミでも、AI アプリ atama+による英語と数学の強化を実施しており、ICT 教材の活用を学校全体で、更に推進していく。 <p>(4) 学力及び進学力向上に向けた方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の学力向上ならびに大学受験の実績向上の為に、英語外部検定試験の受験促進を引き続き行う。 ・ICT 教材 (English 4skills) の導入で英検合格の実績が更に伸びており、これを継続する。 ・昨年度中学入試において英検取得者への優遇措置を広げた結果、高い英検級を持つ生徒の入学に繋がった。 ・中学 3 年～高校 3 年の 4 学年でスタディサプリを学年全体で導入する。これにより個別最適な学習が今まで以上に可能になり、担任・授業担当者が生徒個々のデータを把握分析し、生徒全員の学力向上に向けて支援する体制が整う。 ・2022 年度には年内入試で慶應義塾大学、一般入試で東京芸術大学に、2023 年度には年内入試で上智大学に合格している。生徒それぞれの適性に合わせて年内入試と一般入試を選び、確実に合格に結びつける指導を、教科担当者だけでなく学校全体として更に強化していく。 <p>(5) 小中高連携強化の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高教員による小学校授業担当 (体育科 6 時間・音楽科 4 時間) ・トキ小生の中高部活体験入部 ・中学生による読み聞かせ ・年に 1 度の保護者会での中高校長挨拶 ・トキ小保護者対象入試説明会 など。 <p>(6) 高大連携強化の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トキワ松学園特別入試 ・横浜美大教員による中高授業担当派遣 ・トキ美 (中学生向け放課後美術講座) への講師派遣 ・「とき C a f e」及び廊下の卒業制作ギャラリーなど。 <p>(7) 学外の団体との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023 年度、清泉女子大学との連携協定を結んだ。特別授業を実施してもらうなど、トキワ松学園の教育をより充実させる連携となっている。2024 年度以降も大学との連携協定を増やしていく。 ・福岡女子商業高校との生徒交流、Another works 社の 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業日を実施し、何かあれば速やかにオンラインに切り替える体制を整えた ・DX ハイスクールに採択され、1000 万円の補助金を得た。ICT 機材の導入だけでなく、教員研修を行い今まで以上に効果的な指導ができる体制を整えた。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検で全員受験の回を作るなど、外部検定試験の受験を促進した。 ・中学入試で、昨年度の英検準 2 級に続き今年度は英検 2 級を持つ受験生が入学するなど、英検優遇入試の効果は出ている。 ・中 3～高 3 にスタディサプリを全員導入し、個別最適な学びを生徒自らできる環境を整えた。 ・今年度も一般入試 (東京理科大学他)、総合型選抜入試 (国際基督教大学他)、学校推薦型入試 (東京学芸大学他) と、生徒それぞれの適性にあった入試で受験し、合格することができた。 ・武蔵野美術大学と多摩美術大学と合わせて 15 名が合格するなど、美大進学への指導体制が整ってきた。 <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左記の小中高連携事業に加え、中高校長による放課後算数教室を実施した。次年度以降も継続し、小中高連携をより強化していく。 <p>(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜美術大学への特別推薦制度による 8 名 (うち後期 4 名) と、一般入試による 1 名の合計 9 名が横浜美術大学に進学した。 ・横浜美大教員による授業派遣と、トキ美への講師派遣は生徒からとても評判が良かった。 <p>(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校 1 年生の最初の探究の授業は、元文部科学副大臣鈴木寛先生の講演会 (3 年連続) を実施した。 ・清泉女子大学とは、生徒が大学に行ったり、大学の先生に授業に来てもらったり、実質的な連携ができて
--	--

無料人材派遣の利用をおこなってきたが、今後も大学だけでなく他中高の生徒や社会人との交流を推進していく。

II 生徒支援活動

(1) 探究活動への支援

- ・ 中学段階ではトキワ祭を通じてクラス毎の探究活動を行っているが、そのさらなる充実を図る。
- ・ 高校段階では、外部人材・探究コンテストの紹介、或いは生徒が自分でそれらを探してくる方法を提示し、生徒が主体的に自らの個人探究を行えるような支援を行う。
- ・ 教員がファシリテーターとして生徒の支援を行えるように、教員のスキルアップを図る。

(2) 1人1台端末の有効活用

- ・ プリント配付、課題提出、意見の共有、アンケート等で活用が進んでおり、個別最適な学びの提供に繋がっている。更に2024年度からは高校美術デザインコースで、PCの種類を選択できるようにし、イラストレーター、フォトショップ等のアプリが使いやすくなり、生徒の能力をより伸ばす環境が整う。

(3) トキ美(中学生向け放課後美術講座)の継続と充実

- ・ 高校で美術デザインコースを目指す生徒の為の美術講座へとトキ美を進化させたが、2023年度も抽選が行われた。更に良い講座へと進化させると共に、参加人数枠も検討していく。

III 生徒募集計画

(1) 令和7年度入学者目標

中学1年	120名
高校一年	140名(内進生73名、高入生67名)

(2) 効果的な広報活動の実施

- ・ トキ小保護者対象説明会を、年間1回の実施から2回に増やし、内部推薦人数の拡大を図る。
- ・ 2023年度より開始した学校公式LINEは評判が良く、更に活用を広げて行く。また、現在評判の良いHPの定期的かつ頻繁な更新はこれからも継続する。

(3) 高校文理探究コースの強化

- ・ 高校で5クラス以上を目指す場合、文理探究コースの志望者数を増やす必要がある。年内入試に強く、「文理融合」のカリキュラムが文理探究コースの売りであるため、それらが伝わるコース名の変更も検

いる。

- ・ 高2の個人探究ポスター発表で、ノートルダム女子大学の先生と学生に指導をもらった。

II

(1)

- ・ 中学2年の探究活動として、ロッテの社員による商品開発授業を実施した。
- ・ 各種探究コンテストで多くの受賞者が出たが、担当教員による紹介が実を結んだ結果である。

(2)

- ・ 美術デザインコースで、高性能のパソコンを選択できるようにしたが、アプリが使いやすくなったと好評である。
- ・ トキワ松学園中高で実施した一般の先生向けのロイロノート研修会に本校教員も参加し、その手法を即実践に移すなど、熟練してきている。

(3)

- ・ 今年度も抽選が行われるほど希望者が多く、素晴らしい作品が多数出来上がった。

III

(1)

- ・ 令和7年度入学者数
中学校125名、高等学校106名。
中学は目標を超えることができたが、高校では目標に届かなかった。

(2)~(4)

- ・ トキ小保護者対象の説明会は、高学年と中学年に分けて実施し、対象に合わせた説明をすることができた。
- ・ 中学入試において第3回入試に4科を増やしたが、受験者数の増加につながった。
- ・ 美術デザインコースの入学者が、3年振りに70名を切ってしまった。入試のポイントを上げたことがこの結果につながったと考える。
- ・ 文理探究コースの入学者も、減少した。文理探究コー

<p>討を続け早急に実施したい。</p> <p>(4) 令和5年度 生徒募集事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験生・保護者対象校内説明会 ・受験生・保護者対象外部相談会 ・ミニ見学会 ・夏の見学会含む ・トキワ祭来場者 ・個別塾生対象オンライン説明会 ・公立中学校電話伺い（訪問は取りやめ） ・塾訪問 ・塾・中学への学校案内等の配布 ・来校者への礼状・案内送付 <p>※説明会と並行して行った体験教室の内容</p> <p>中学 PA体験 授業体験（理科・社会・美術・家庭科・数学） 英語体験 複数回来校者対象国算勉強教室 入試体験 算数勉強教室</p> <p>高校 デッサン教室 GS体験 美術入試体験</p> <p>IV 地域・社会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目黒区社会福祉協議会のボランティアにはトキワ松高校から 82 名が参加し、目黒区全体の参加者（145 名）の過半数を占めた。盛んなボランティア活動を継続すると共に、更に推進していく <p>※現在行っているその他のボランティア</p> <p>スペシャルオリンピックス（ユニファイト参加）、リバーサイドフェスティバル参加（目黒区商工会主催）、碑文谷町会お祭り参加、目黒中央体育館「館まつり」等</p>	<p>スの魅力を中学校と中学生に発信することが不十分であった結果と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学入試で、2年連続の4クラスとなった。この規模を維持することが、3年後の高校入試にも好影響となるので、引き続き中学募集に力を入れていきたい。 ・生徒募集事業に関しては、計画通りに実施した。 ・生徒による、司会進行、発表、校内案内を高く評価してもらっている。今後も継続、発展させていきたい。 <p>IV</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒によるボランティア活動は、例年通り参加率が高かった。 ・左記の学校紹介によるボランティアだけでなく、その他の活動に多くの生徒が取り組んだ。 ・学内施設の外部貸し出しを、積極的に行った。 ロイロノート研修会を2回 映画「夢見る学校」上映会 ペップティーチャーアワード
--	---

トキワ松学園小学校

事業計画	実績
<p>I 教育研究活動</p> <p>(1) 学校教育目標に根ざした教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活、学習、行事などあらゆる教育活動の場面において「健康 感謝 親切 努力」の四つの目標を意識し、円満な人格形成（知・徳・体のバランス）を目指す。 <p>(2) 表現活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇遊び授業を通した想像力・創造力・コミュニケーション力の育成 ・教科学習や全校集会等における発表機会の充実 ・俳句創作への継続的な取り組み 	<p>I</p> <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内年度目標の設定 ・全校朝礼での校長講話・児童向け掲示板設置 ・各行事の目標と「健康 感謝 親切 努力」との関連づけ <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長による表現（劇遊び）授業の実施…全クラス学期1回の授業、及び保護者・外部参加者を募っての公開授業を実施 ・俳句創作…学校だよりでの紹介、朝日小学生新聞への

<p>(3) ICT教育の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPad活用が定着してきたため、支援員とともに学習での活用をさらに発展させる。 ・メディアリテラシー学習の体系化 <p>(4) 英語教育の継続及び発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～4年の英語授業を分割化しさらなるきめ細やかな指導の実施、3年目となる校内英語留学の発展、英語辞書アプリの活用 <p>(5) 基礎学力の定着と、個を伸ばす学習活動の両立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科目標に基づく基礎学力の定着 ・児童・教員相互の創意工夫を生かした授業づくりの推進及び共有 <p>II 児童支援活動</p> <p>(1) 多様な学びの機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者による特別授業を実施 ・各教科における出前授業・校外学習の活用 ・一人一ひとりの力を発表する場づくり <p>(2) 児童が安心できる居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「トキワだより」の活用、校内コミュニティの活性化 ・適応が困難な児童（不登校含む）へのサポート体制を整える <p>(3) 「トキワ松ファミリー」を生かした豊かな交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者特別授業、中高・大学・さつき会・アフタースクールとの連携事業 ・児童・保護者参加の劇遊びワークショップ <p>III 児童募集計画</p> <p>(1) 令和7年度入学者目標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">46～48人</div> <p>(2) 新体制2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に対する安心感・信頼感を醸成できるよう、在校生保護者・卒業生、外部保護者、幼稚園・幼児教室と積極的に交流する。 	<p>投句、俳句コンクールへの応募。コンクールでの入選と新聞での複数回掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年学習発表会、全校集会個人発表 他 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアリテラシーカリキュラム作成 ・ICT支援員と連携したメディアリテラシー授業の実施（令和7年度全学年実施に向けてのプレ授業） ・探究学習・プレゼン発表での活用（中～高学年） <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語辞書アプリ活用の定着 ・iPadを活用した発音練習の日常的取り組み ・7月校内英語体験実施（英語劇発表／3日間） <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科目標の作成と共有 ・進級テスト（全学年）及び実力テスト（高学年）の実施及び分析→令和7年度基礎学力強化・進学指導強化に向けての意識化 <p>II</p> <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者特別授業の実施（空手体験、獣医学、医学、等） ・NPO法人「原爆先生」授業実施（11月・6年生） ・夏の自由研究発表、自学ノートの取り組みと発表、全校集会個人発表、卒業式一言発言、他 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「トキワだより」発行（全21回） ・児童への個別サポート（校長室・保健室登校、児童面談・保護者面談、他） <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者特別授業実施、読書週間での保護者・中高生による読み聞かせ実施、卒業生交流（バザー、スキー） ・保護者参加授業（5年探究発表会、希望者参加劇遊びWS、球技会、他） <p>III</p> <p>(1)</p> <p>令和7年度入学者 50名（男子30名、女子20名）</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校保護者会（4月）、学年懇談会実施（年7～8回） ・幼稚園回り（6～7月） ・幼児教室対象説明会（1月）、幼児教室への会場貸し及び校長講演（8月、1月、3月）
--	--

(3) 女子志願者増に向けて

- ・2020年度からの進学体制の変更を周知・徹底するとともに、トキワ松学園中学校のよさも併せて伝えていく。

(4) 広報活動

- ・学校見学では関わる教員を増やし、訪問者と教員の距離をこれまで以上に近づける。
- ・説明会・公開授業においても、教員と直接話ができる機会をより多く提供する。
- ・HPの各ページの定期更新
- ・幼児教室と連携し、新規志願者とともにいわゆる「熱望組」を増やす

IV 地域・社会活動

(1) 「地球上のさまざまな問題に目を向ける学習」への取り組み

- ・SDGs、平和学習、環境問題等、各学年でテーマをもって取り組む
- ・児童会活動（募金など）

(2) 地域社会との関わりを生かした学習

- ・生活科及び社会科での地域校外学習

V その他

(1) 校内研修の充実

- ・「研究会」の活用（ミニ提案・ミニワークショップなど）
- ・外部講師による研究授業の実施（3年目）
- ・日常的な授業相談など、職員室に「学びの土壌」をつくる

(3)

- ・学校説明会・学校見学等での進学に関する詳細説明
- ・令和6年度6年生女子15名のうち、内部推薦者3名＋外部受験1名の4名が内部進学。外部進学は、横浜雙葉、鷗友学園、明大明治、神奈川大学付属、等

(4)

- ・教頭・養護に加え、校長・教務主任も学校見学を担当
- ・学校説明会後の校内見学は、全教員で対応
- ・外部合同説明会で卒業生教員、校内説明会で卒業生がそれぞれ質問対応
- ・HPの「トキワ松だより」（各行事担当教員）、「校長ブログ」（校長）の月2～4回更新
- ・幼児教室との交流・連携（幼児教室主催説明会にて校長による講演・学校案内等）

IV

(1)

- ・各教科学習、総合学習、朝礼講話等での学習
- ・ユニセフ募金、エコキャップ回収（児童会活動）実施

(2)

- ・消防写生会（目黒消防署／全校児童）
- ・地域めぐり、スーパーオオゼキ見学（3年生）
- ・平町児童館・碑文谷警察署見学（2年生）他

V

(1)

- ・話し合い「トキワ松の特色と取り組み」、提案「教室をきれいにしよう」「通知表について」他

●校内研修会

①研究授業：若狭教諭（3年算数）・太田教諭（3年国語）／講師 渡辺貴裕先生（東京学芸大学教職大学院准教授）

②ワークショップ：「イエス・アンドの学校づくり」
講師 絹川友梨先生（㈱インプロワークス代表）

③講演：「すべての子どもたちが元気に学校に通えるように」／講師 大草正信先生（学校心理士・臨床心理士）

●公開授業

①表現活動「みんなで楽しむ表現遊び・劇遊び」（1～6年生児童・保護者希望者＋外部参加者）

2024年11月22日 授業者：百合岡校長

②5年総合「探究学習」（兼：東初協メディア部会研修）

2025年2月6日 授業者：5年担任藤岡教諭・川澄教諭

<p>(2) 宿泊行事の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校宿泊、海の教室、修学旅行…時期・場所・内容等を見直していく <p>(3) 小学校の歴史資料の整理</p>	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の教室の宿泊先を休暇村に変更 ・学校宿泊を7月から6月に変更 ・修学旅行は検討継続 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長による学校の歴史授業実施（11月、全学年） 歴史資料の整理は小学校80周年（2031年）に向けて継続
---	--

法人事務局

事業計画	実績
<p>(1) 次期中期的な計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の「学校法人トキワ松学園の中期的な計画」が令和7年3月31日で終了となるため、次期中期的な計画を策定する。 <p>(2) 私立学校法改正への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年4月1日施行となる改正私立学校法に対応した寄附行為変更、理事会・評議員会組織の見直しを行う。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年4月1日から5年間の次期中期的な計画を策定した。 ・計画には学園の安定的な経営の財務指標として「積立率」目標を設定した。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄附行為変更申請を行い、文部科学省の認可を得た。 ・その他私学法改正による諸規程の変更等を実施した。

3. 財務の概要（経年比較）

（1）貸借対照表

（単位：千円）

	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末	R6年度末
固定資産	7,219,913	7,240,734	7,270,362	7,245,052	7,264,709
流動資産	1,836,278	2,005,007	2,102,853	2,203,727	2,460,749
資産の部合計	9,056,191	9,245,741	9,373,215	9,448,780	9,725,459
固定負債	684,379	654,236	614,889	580,507	501,808
流動負債	924,430	875,957	931,928	930,268	1,053,885
負債の部合計	1,608,810	1,530,194	1,546,817	1,510,776	1,555,694
基本金	11,528,867	11,678,429	11,755,232	11,839,319	11,957,280
繰越収支差額	▲ 4,081,486	▲ 3,962,882	▲ 3,928,834	▲ 3,901,315	▲ 3,787,515
純資産の部合計	7,447,381	7,715,547	7,826,398	7,938,004	8,169,765
負債及び純資産の部合計	9,056,191	9,245,741	9,373,215	9,448,780	9,725,459

（2）資金収支計算書

（単位：千円）

収入の部	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末	R6年度末
学生生徒等納付金収入	1,775,934	1,853,034	1,812,203	1,881,024	1,906,519
手数料収入	29,127	24,991	27,755	27,550	27,297
寄付金収入	79,582	83,898	19,613	26,152	44,005
補助金収入	578,507	609,332	655,008	614,112	781,825
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	231	2,175	7,158	11,013	11,066
受取利息・配当金収入	784	869	1,060	2,803	4,250
雑収入	97,209	33,269	53,981	54,860	153,612
借入金等収入	400	400	400	200	200
前受金収入	531,122	512,283	535,653	560,022	591,761
その他の収入	216,659	126,873	35,150	53,452	59,490
資金収入調整勘定	▲ 632,772	▲ 569,668	▲ 570,951	▲ 605,868	▲ 722,418
前年度繰越支払資金	1,421,816	1,738,060	1,968,542	2,048,076	2,138,326
収入の部合計	4,098,603	4,415,519	4,545,575	4,673,402	4,995,936

支出の部	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末	R6年度末
人件費支出	1,536,836	1,483,418	1,578,184	1,598,740	1,813,964
教育研究経費支出	416,253	478,489	485,897	514,539	525,874
管理経費支出	131,235	111,093	142,124	126,590	139,108
借入金等利息支出	5,110	4,607	4,105	3,603	3,101
借入金等返済支出	40,610	41,010	40,810	40,610	40,610
施設関係支出	65,473	82,247	36,174	33,492	60,876
設備関係支出	57,903	49,865	94,616	55,722	63,764
資産運用支出	151,180	130,000	145,000	132,000	134,000
その他の支出	175,526	236,820	199,192	263,062	252,736
資金支出調整勘定	▲ 219,586	▲ 170,573	▲ 228,607	▲ 233,285	▲ 347,703
翌年度繰越支払資金	1,738,060	1,968,542	2,048,076	2,138,326	2,309,603
支出の部合計	4,098,603	4,415,519	4,545,575	4,673,402	4,995,936

(3) 事業活動収支計算書

単位：千円

区 分		R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末	R6年度末	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	1,775,934	1,853,034	1,812,203	1,881,024	1,906,519
		手数料	29,127	24,991	27,755	27,550	27,297
		寄付金	78,582	79,541	19,613	26,152	44,203
		経常費等補助金	574,440	607,128	649,174	614,112	771,268
		付随事業収入	231	2,175	7,158	11,013	11,066
		雑収入	29,637	8,730	14,471	33,084	35,477
		教育活動収入計	2,487,953	2,575,601	2,530,376	2,592,938	2,795,832
	支出の部	人件費	1,459,809	1,475,587	1,545,402	1,584,158	1,655,080
		教育研究経費	633,898	706,720	717,078	745,362	749,234
		管理経費	139,516	119,457	150,761	136,946	151,004
		徴収不能額等	16,410	6,387	6,632	8,077	15,908
教育活動支出計		2,249,635	2,308,153	2,419,874	2,474,544	2,571,226	
教育活動収支差額		238,318	267,448	110,502	118,394	224,605	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	635	706	897	2,640	4,087
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	635	706	897	2,640	4,087
	支出の部	借入金等利息	5,110	4,607	4,105	3,603	3,101
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	5,110	4,607	4,105	3,603	3,101
教育活動外収支差額		▲ 4,474	▲ 3,901	▲ 3,207	▲ 962	986	
経常収支差額		233,843	263,547	107,294	117,431	225,591	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	6,343	7,542	12,460	1,456	11,624
		特別収入計	6,343	7,542	12,460	1,456	11,624
	支出の部	資産処分差額	2,686	2,924	8,643	7,281	4,855
		その他の特別支出	0	0	260	0	600
		特別支出計	2,686	2,924	8,903	7,281	5,455
特別収支差額		3,657	4,618	3,556	▲ 5,825	6,168	
基本金組入前当年度収支差額		237,500	268,166	110,850	111,606	231,760	
基本金組入額合計		▲ 140,122	▲ 149,561	▲ 76,803	▲ 84,087	▲ 117,960	
当年度収支差額		97,378	118,604	34,047	27,519	113,800	
前年度繰越収支差額		▲ 4,178,864	▲ 4,081,486	▲ 3,962,882	▲ 3,928,834	▲ 3,901,315	
基本金取崩額		0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		▲ 4,081,486	▲ 3,962,882	▲ 3,928,834	▲ 3,901,315	▲ 3,787,515	
(参考)							
事業活動収入計		2,494,932	2,583,851	2,543,734	2,597,035	2,811,544	
事業活動支出計		2,257,431	2,315,685	2,432,883	2,485,429	2,579,784	

(4) 主な財務比率比較

(%)

比率名	算式	評価	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末	R6年度末
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	△	54.0	70.2	79.9	88.0	89.9
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	198.6	228.9	225.6	236.9	233.5
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	17.8	16.6	16.5	16.0	16.0
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	～	327.2	384.3	382.4	381.8	390.3
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	～	95.6	96.0	96.4	96.9	97.5
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	38.9	43.9	46.6	49.0	53.1
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	58.7	57.3	61.1	61.0	59.1
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	25.5	27.4	28.3	28.7	26.8
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	5.6	4.6	6.0	5.3	5.4
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	～	71.4	71.9	71.6	72.5	68.1
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△	9.4	10.2	4.2	4.5	8.1
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入計}}$	△	9.5	10.4	4.4	4.3	8.2
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債+純資産}}$	△	82.2	83.4	83.5	84.0	84.0

(備考) 評価: △高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない

- ・「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計
- ・「運用資産」＝現金預金＋特定資産＋有価証券
- ・「要積立額」＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋2・3号基本金

(財務比率の意味)

- 「運用資産余裕比率」：学校法人の1年間の経常的な支出に対しどの程度の運用資産を蓄積しているかを示す。この比率が高いほど運用資産の蓄積が良好といえる。
- 「流動比率」：流動負債に対する流動資産の割合を示す。短期的な資金繰りに支障がないかをみるため、高い値ほど良い。この値が100%を切ると短期の資金繰りに窮している可能性がある。
- 「総負債比率」：負債総額の総資産に対する割合を示す。この比率は低いほど望ましく、50%を超えると負債総額が純資産を上回ることを示し、100%を超えると、いわゆる債務超過であることを示す。
- 「前受金保有率」：前受金と現預金の割合を示す。翌年度分の授業料等が現預金として適切に保有されているかを測る比率であり、100%を超えることが一般的とされる。
- 「基本金比率」：基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合を示す。この比率は100%が上限であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを示す。
- 「積立率」： $\text{運用資産} = \text{現金預金} + \text{特定資産} + \text{有価証券}$ 、 $\text{要積立額} = \text{減価償却累計額} + \text{退職給与引当金} + \text{2・3号基本金}$ 。学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要な運用資産の保有状況を表す。
- 「人件費比率」：人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると収支悪化に繋がる要因となる。
- 「教育研究経費比率」：教育研究経費の経常収入に占める割合を示す。教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率は収支均衡を失しない範囲で高くなることが望ましい。
- 「管理経費比率」：経常収入に対する管理経費の占める割合を示す。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人運営のためにやむを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。
- 「学生生徒等納付金比率」：学生生徒等納付金の経常収入に占める割合を示す。学校における最大の収入要素であり、この比率が安定的に推移することが望ましい。
- 「経常収支差額比率」：経常的な収支バランスを示す。学校の経常的な活動（教育活動と主に財務活動）の収支状況を見る比率であり、高いことが望ましい。
- 「事業活動収支差額比率」：事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額の占める割合を示す。この比率が高いほど自己資金が充実するため、高いことが望ましい。
- 「純資産構成比率」：純資産の総資産に占める割合を示す。総資産の財源が自己資金なのか、他人資金なのかを見るため、高い値ほど良い。長期的な財務状況を確認するための指標。

(5) 各部門毎の事業活動収支計算書の経年比較

①法人部門

単位：千円

区 分		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	0	0	0	0
		手数料	0	0	0	0
		寄付金	0	1,000	0	0
		経常費等補助金	0	0	0	0
		付随事業収入	0	0	0	0
		雑収入	88	6	7	4
		教育活動収入計	88	1,006	7	4
	支出の部	人件費	43,163	38,335	38,948	38,307
		教育研究経費	0	0	0	0
		管理経費	8,405	4,334	4,557	5,337
徴収不能額等		0	0	0	0	
教育活動支出計		51,568	42,670	43,506	43,644	
教育活動収支差額		▲ 51,480	▲ 41,663	▲ 43,499	▲ 43,640	▲ 48,291
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	0	▲ 162	▲ 162	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0
		教育活動外収入計	0	▲ 162	▲ 162	0
	支出の部	借入金等利息	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0
教育活動外収支差額		0	▲ 162	▲ 162	0	0
経常収支差額		▲ 51,480	▲ 41,826	▲ 43,662	▲ 43,640	▲ 48,291
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0
		その他の特別収入	0	0	0	0
		特別収入計	0	0	0	0
	支出の部	資産処分差額	0	0	0	0
		その他の特別支出	0	0	0	0
		特別支出計	0	0	0	0
特別収支差額		0	0	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額		▲ 51,480	▲ 41,826	▲ 43,662	▲ 43,640	▲ 48,291
基本金組入額合計		142	0	150	▲ 2	710
当年度収支差額		▲ 51,338	▲ 41,826	▲ 43,512	▲ 43,642	▲ 47,581
財務比率(%)	人件費比率	—	—	—	—	—
	教育研究経費比率	—	—	—	—	—
	管理経費比率	—	—	—	—	—
	学生生徒等納付金比率	—	—	—	—	—
	事業活動収支差額比率	—	—	—	—	—

②大学部門

単位：千円

区 分		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	1,225,592	1,271,027	1,235,036	1,257,852	1,254,811
		手数料	18,789	13,932	15,069	15,401	15,427
		寄付金	51,129	50,450	120	1,875	1,810
		経常費等補助金	135,306	149,333	172,453	159,011	186,421
		付随事業収入	0	968	6,059	9,311	8,671
		雑収入	28,489	6,612	11,532	29,589	31,565
		教育活動収入計	1,459,307	1,492,324	1,440,272	1,473,042	1,498,707
	支出の部	人件費	683,407	715,069	749,043	797,558	812,224
		教育研究経費	408,267	457,981	463,427	484,902	484,791
		管理経費	78,645	77,199	105,339	90,511	100,049
		徴収不能額等	16,410	6,387	6,632	8,077	15,799
教育活動支出計		1,186,731	1,256,638	1,324,441	1,381,049	1,412,864	
教育活動収支差額		272,575	235,685	115,830	91,993	85,843	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	221	303	370	921	1,430
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	221	303	370	921	1,430
	支出の部	借入金等利息	2,033	1,893	1,753	1,612	1,472
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	2,033	1,893	1,753	1,612	1,472
教育活動外収支差額		▲ 1,811	▲ 1,589	▲ 1,382	▲ 691	▲ 41	
経常収支差額		270,764	234,095	114,447	91,302	85,801	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	4,027	1,734	4,193	859	563
		特別収入計	4,027	1,734	4,193	859	563
	支出の部	資産処分差額	66	594	3,509	4,486	717
		その他の特別支出	0	0	260	0	600
		特別支出計	66	594	3,769	4,486	1,317
特別収支差額		3,960	1,139	424	▲ 3,626	▲ 754	
基本金組入前当年度収支差額		274,724	235,235	114,871	87,675	85,047	
基本金組入額合計		▲ 105,949	▲ 132,012	▲ 46,726	▲ 62,059	▲ 88,548	
当年度収支差額		168,775	103,223	68,145	25,615	▲ 3,501	
財務比率(%)	人件費比率		46.8	47.9	52.0	54.1	54.1
	教育研究経費比率		28.0	30.7	32.2	32.9	32.3
	管理経費比率		5.4	5.2	7.3	6.1	6.7
	学生生徒等納付金比率		84.0	85.2	85.7	85.3	83.6
	事業活動収支差額比率		18.8	15.7	8.0	5.9	5.7

③中学校・高等学校部門

単位：千円

区 分		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	348,216	374,959	374,595	418,391	437,702
		手数料	7,560	8,080	8,859	8,945	8,695
		寄付金	17,194	12,481	10,414	10,002	25,584
		経常費等補助金	334,244	354,791	371,574	348,320	472,880
		付随事業収入	231	1,207	1,098	1,702	2,395
		雑収入	940	872	2,503	3,254	3,662
		教育活動収入計	708,385	752,392	769,046	790,616	950,920
	支出の部	人件費	549,666	554,373	580,539	564,186	591,174
		教育研究経費	172,462	182,515	192,305	197,517	196,604
		管理経費	42,674	30,891	31,585	32,904	33,594
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計		764,803	767,781	804,430	794,608	821,374	
教育活動収支差額		▲ 56,417	▲ 15,388	▲ 35,384	▲ 3,992	129,546	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	344	471	575	1,432	2,206
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	344	471	575	1,432	2,206
	支出の部	借入金等利息	2,563	2,262	1,960	1,658	1,357
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	2,563	2,262	1,960	1,658	1,357
教育活動外収支差額		▲ 2,219	▲ 1,790	▲ 1,385	▲ 226	849	
経常収支差額		▲ 58,637	▲ 17,179	▲ 36,769	▲ 4,218	130,395	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	1,574	4,882	5,131	390	8,086
		特別収入計	1,574	4,882	5,131	390	8,086
	支出の部	資産処分差額	2,544	2,062	2,832	2,168	3,382
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	2,544	2,062	2,832	2,168	3,382
特別収支差額		▲ 969	2,819	2,299	▲ 1,777	4,704	
基本金組入前当年度収支差額		▲ 59,606	▲ 14,359	▲ 34,470	▲ 5,995	135,099	
基本金組入額合計		▲ 27,199	▲ 14,055	▲ 27,374	▲ 22,594	▲ 14,921	
当年度収支差額		▲ 86,806	▲ 28,414	▲ 61,845	▲ 28,590	120,178	
財務比率(%)	人件費比率	77.6	73.6	75.4	71.2	62.0	
	教育研究経費比率	24.3	24.2	25.0	24.9	20.6	
	管理経費比率	6.0	4.1	4.1	4.2	3.5	
	学生生徒等納付金比率	49.1	49.8	48.7	52.8	45.9	
	事業活動収支差額比率	▲ 8.4	▲ 1.9	▲ 4.4	▲ 0.8	14.1	

④小学校部門

単位：千円

区 分		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	202,126	207,048	202,572	204,780	214,005
		手数料	2,778	2,978	3,826	3,203	3,175
		寄付金	10,259	15,610	9,078	14,274	16,808
		経常費等補助金	104,890	103,003	105,146	106,780	111,965
		付随事業収入	0	0	0	0	0
		雑収入	119	1,238	427	236	244
		教育活動収入計	320,172	329,878	321,050	329,275	346,198
	支出の部	人件費	183,572	167,808	176,870	184,106	209,658
		教育研究経費	53,168	66,223	61,345	62,942	67,838
		管理経費	9,791	7,030	9,279	8,192	11,085
		徴収不能額等	0	0	0	0	108
教育活動支出計		246,531	241,063	247,494	255,241	288,691	
教育活動収支差額		73,640	88,815	73,555	74,033	57,507	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	69	94	115	286	449
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	69	94	115	286	449
	支出の部	借入金等利息	512	452	392	331	271
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	512	452	392	331	271
教育活動外収支差額		▲ 443	▲ 358	▲ 277	▲ 45	178	
経常収支差額		73,197	88,457	73,278	73,988	57,686	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	741	926	3,135	205	2,974
		特別収入計	741	926	3,135	205	2,974
	支出の部	資産処分差額	75	267	2,302	626	755
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	75	267	2,302	626	755
特別収支差額		666	659	833	▲ 421	2,218	
基本金組入前当年度収支差額		73,863	89,116	74,112	73,567	59,904	
基本金組入額合計		▲ 7,115	▲ 3,494	▲ 2,851	569	▲ 15,200	
当年度収支差額		66,748	85,622	71,260	74,136	44,704	
財務比率(%)	人件費比率	57.3	50.9	55.1	55.9	60.5	
	教育研究経費比率	16.6	20.1	19.1	19.1	19.6	
	管理経費比率	3.1	2.1	2.9	2.5	3.2	
	学生生徒等納付金比率	63.1	62.7	63.1	62.1	61.7	
	事業活動収支差額比率	23.0	26.9	22.9	22.3	17.1	